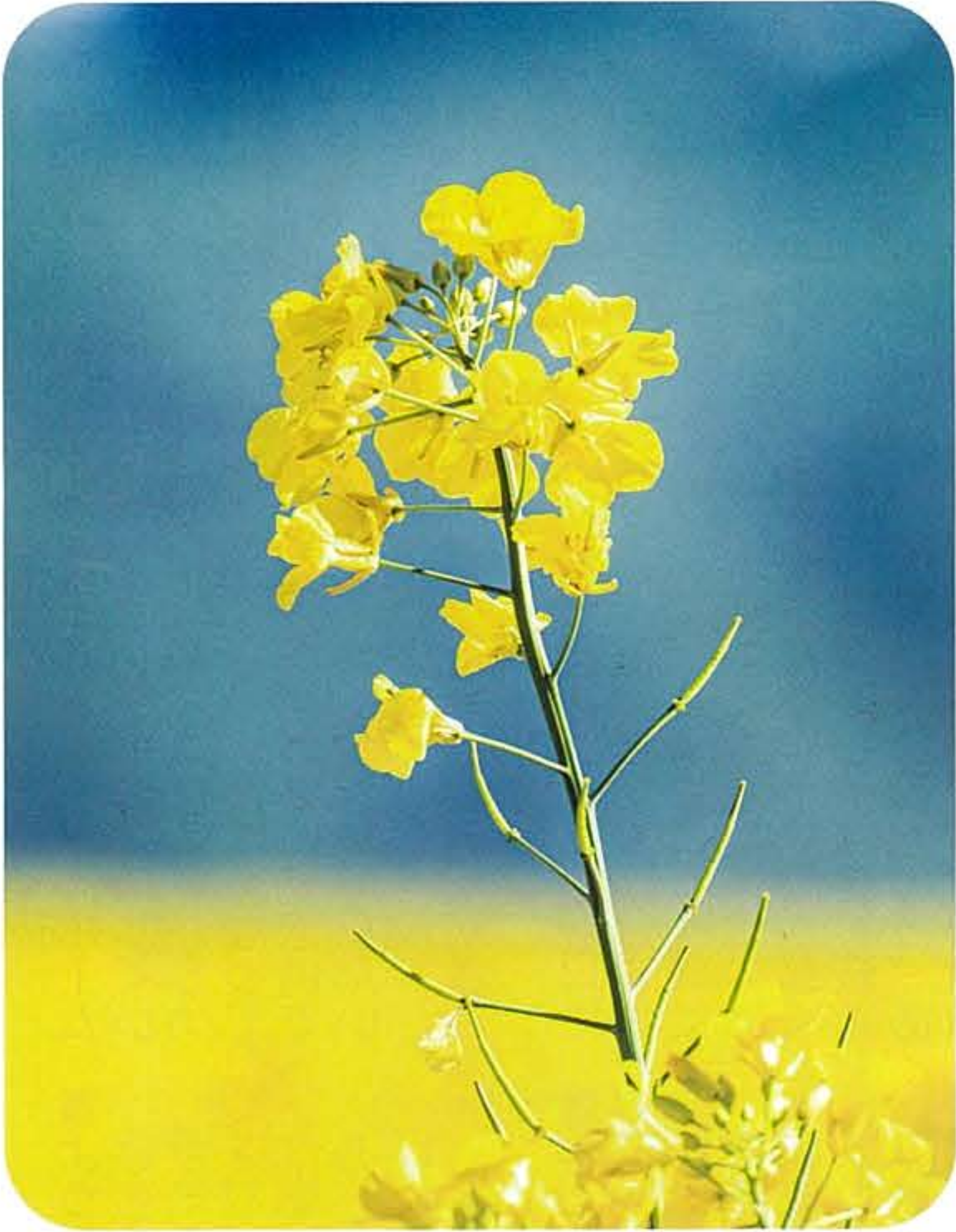


たんけん

毎年景色が変わる菜の花畑「鰯ヶ沢町建石地区の菜の花畑」



青森県で「菜の花」といえば横浜町が有名ですが、津軽にも菜の花で有名場所があります。岩木山の麓、鰯ヶ沢町の建石地区では毎年、同じ種類の野菜を同じ畑で生産し続けると発生する栄養不足や病気になりやすくなる連作障害を防ぐため、前年に別の種類の野菜を植えた畑に菜の花が植えられています。そのため毎年、菜の花畑の位置が変わり、雪が残る岩木山と黄色い菜の花絨毯で見に来た人を楽しませてくれます。

菜の花はアブラナ科の植物で、ブロッコリーや大根の仲間です。花が咲くと普段食べている花蕾や根、葉などが食用に向かなくなるため、菜の花以外のアブラナ科の花を見る機会はありません。菜の花自体の日本国内での生産は少なく、この畑で栽培された菜の花がどの様に利用されているかは定かではありませんが、菜の花は様々な利用の仕方があり、種から絞った油は菜種油、つぼみの状態ではナバナとして食用にされています。食べる以外にも、植えた植物を収穫せずにそのまま田畑を耕して次に栽培する作物の肥料にする緑肥作物としても利用されます。連作を防ぐ目的で植えられている鰯ヶ沢の菜の花ですが、菜の花自体は連作に弱いので、毎年作る畑が違ふことはきれいな菜の花畑に働いているのかもしれない。

建石地区の菜の花畑は、土地を所有する農家さんご厚意で開放されています。そのため路上駐車したり、立ち入りが禁止されているところに入ったりするなどしないよう気をつけながらご覧になってください。

新入学児童に、「コーすけランドセルカバー」を贈呈しました。



青森市では毎年新入学児童へ、交通事故防止を目的に市内の事業者や団体からの寄贈された交通安全用品を配布しています。3月28日(金)青森市内のアップルパレスで交通安全用品の贈呈式が実施されました。この取り組みに、コープ共済連から「コーすけのランドセルカバー」を贈呈しており式典には、青森市内でコープ共済を取り扱うコープあおもりと青森市民生協、コープ共済連の代表として、コープあおもりから古村理事が出席し、新入学児童へ「ランドセルカバーのコーすけと一緒に交通安全に気をつけて登下校してください」と話しました。「コーすけのランドセルカバー」は青森市内の新入学児童をはじめ、青森県内183校の小学校に6,496枚が配布されています。

コープくらしのたすけあいの会

コープくらしのたすけあいの会は、1998年青森県内の生協が協同して、思いやりのある豊かな地域づくりをめざして活動をスタートしました。以来26年、たすけあい活動は八戸地域を皮切りに弘前地域、青森地域、下北地域へと広がりました。生協組合員だけでなく、県民ならだれでも利用でき、地域包括支援センターやケアマネジャーとの連携のもと、くらしを支える有償ボランティアの会として多くの方に利用いただいています。

○2024年度たすけあいの会の利用が広がりました。

1年間で76名の方が新たに利用会員に登録され、2月21日現在497名の登録です。

活動会員も6名増え、161名の登録となりました。賛助会員は13名増え177名です。

○利用相談事例の紹介

- ・一人暮らしの利用会員から「玄関から動けない。助けてくれ。」との電話が事務局に入りました。担当コーディネーターに連絡をとり、現場に駆けつけてもらってのことと包括の連絡をお願いしました。包括で救急車を呼び、救急病院搬送となり脳梗塞で入院となりました。
- ・目が見えない利用会員さんと息子さんの2人暮らしのお宅に掃除に入っているBさんからの報告です。「とてもきれいに暮らしている。一緒に料理を作ったり掃除をしたりにしているが、とても気づかいが細やかでこちらもうれしくなります。」とのこと。
- ・出産直後のお手伝いや、精神的な病気で動けないなどの相談に家事支援で入っています。こうした支援で気持ちの和らぎ、身体の不調も改善していくことが多いです。



・下北地域は地域包括支援センターとの関係が濃いです。研修会等の講師に包括支援センターにコーディネーターが直接お願いに行ったり、困ったことがあれば相談に乗っていただいたりしています。様々な団体が役割分担して地域を支えていることを実感させてくれます。